

〈アラビアのロレンス〉のコロムビア
〈風と共に去りぬ〉のMGM
世界の2大映画会社が
総力を結集して描く 雄渾の超大作

悠久の砂漠に いま燃えあがる 愛と友情と戦いの炎

The Wind and The Lion

風とライオン

70mm
カラー作品 パナビジョン

シヨーン・コネリー
キャンティス・バーゲン
ブライアン・キース
ジョン・ヒューストン

製作ハーブ・ジャッフェ
監督・脚本ジョン・ミリアス
音楽ジェリー・ゴルドスミス
原作邦訳・早川書房刊
コロムビア映画



■カラー作品／パナビジョン

風とライオン

The Wind and the Lion

70mm



●国際的スケールの紛争がテーマに

一九〇四年のモロッコ。原住民族リフ族の首長ライズリは、アメリカ婦人イーデン・ペディカリスと、そのふたりの子供たちを、白昼白人専用地区から誘拐した。

この事件は、ただちに第26代アメリカ合衆国大統領シオドア・ルーズベルトに報告された。大統領は、次期選挙にこれを利用しようとして、ペディカリス夫人救出！ライズリを葬れ！のスローガンをかけた。

だが、ライズリの行為は圧政から民衆を救おうとしてとった非常手段だった。捕えられた夫人たちはライズリの厚遇をうけ、いつしか夫人とライズリの間には友情以上の感情が芽生えはじめた。ライズリは大統領に挑戦した。アメリカ海軍の艦隊はモロッコへ出動。やがて、この事件は国際的スケールの紛争へと発展していく。

●ハリウッド二大映画会社が共同製作

この映画は、ロシター・フォーブスの歴史小説「リフ族の首長」にもとづいている。今年30歳のジョン・ミリアス監督（「デリンジャー」）は、この本を読んで以来、いつか映画化したいと思っていたという。

ミリアスがプロデューサーのハーブ・ジャップフェに映画化の話を持ちこんで、「風とライオン」は、コロムビア・MGMというハリウッド二大メーカーの対等の共同出資で、74年8月19日、スペインのマドリッドでクランク・インした。

題名の「風とライオン」は、ライズリがルーズベルトにあてた手紙の中で、「兄弟よ、あなたは風だ。そして私はライオンなのだ」と表現しているところからとられたものである。

●白熱の名演シヨーン・コネリーVSキャンティス・バーゲン

主演者は、リフ族の首長ライズリに「オリエント急行殺人事件」のシヨーン・コネリー。黒衣をまとい、白馬にまたがって砂漠を疾駆するその勇姿は、まさに適役だ。

そして、ライズリに誘拐されるアメリカ婦人に「弾丸を噛め」のキャンティス・バーゲン。その知的な美しさには、ますますみがきかけられ、ロケ撮影中、キャンティスは「ミセス・アラビアのロレンス」と呼ばれた。

その他、シオドア・ルーズベルト大統領に「ザ・ヤクザ」のブライアン・キース、國務長官ジョン・ヘイにベテラン監督兼俳優のジョン・ヒューストンが扮し、迫真の演技をくりひろげている。

●「アラビアのロレンス」を思わせる一大叙事詩

この映画のみどころは、壮大な大自然！砂漠の美しさと厳しさと、そして民族や人種をこえたヒューマニズムの偉大さだ。時を支配し、時に支配される英雄の群像。それは、まさに一大叙事詩を織りあげていく。

この映画のハイライト・シーンである戦闘場面の撮影風景やロケ隊のテント群などを見た人々は、まさに「アラビアのロレンス」の撮影現場にいるような錯覚にとらえられたという。戦闘場面ひとつにしても、「ローラーボール」のスタントマン、テリー・ロナルドら14名のスタント・グループを投入。2千をこえるエキストラ軍団をジェット・ヘリコプターと無線で動かし、みわたすかぎりの砂の海のあるこちらで、500回の爆発が続けざまに起こされた。

淀川長治さん

(映画評論家)

モロッコの沈む太陽に

沙漠の砂塵舞い上る

その恐怖と哀感。

しかも

大作のスケール

驚くばかり



次回ロードショー

東銀座 松竹セントラル (541) 2714